

教えて！
加藤先生



道徳授業／誌上チェック&アドバイス

4学年 【主題名】 生きる力

【教材名】
元気がいちばん
(光文書院)



主題を通して考えたいこと

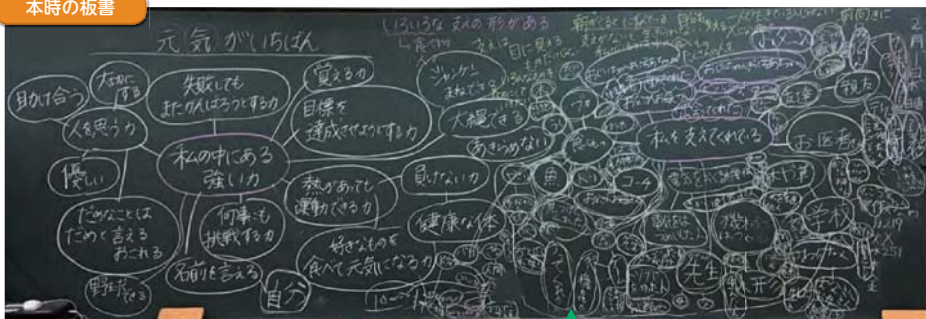
<生命の尊さ、家族愛、感謝>

- 自分は家族をはじめ、たくさんのものに支えられて生きていることを実感し、自分の中にはその支えによって生まれたたくさんの強い力があること。

本時の展開

学習	手立て
○「△△がいちばん」について考える。	●「△△がいちばん」についてノートに書いて考えさせる。
○教材「元気がいちばん」を読み、自分の中にはどんな強い力があるか考える。	●「私の中にある強い力」「私を支えてくれているもの」を中心として2つのウェビングを行い、たくさんの「力」「もの」「こと」に囲まれた自分を視覚的にイメージしやすくする。
○その強い力をもつ自分になれたのは何のおかげかを考える。	●全員に教室内を回らせて、「本人が気づいていない力をノートに書き足してあげよう！」という友達ノートに書き込む時間を設ける。
○本時をふり返る。	●ノートに書くことで、自分の考えを整理させる。

本時の板書



授業で工夫した点

ウェビングを取り入れ、自分を中心にたくさんの「力」「もの」「こと」そして「人」につながっていることを視覚的に表すことで充実感をもたせた。また、自力で自分の力を見つけるのに苦勞していた子どもへの手立てとして、みんなで教室を回り、本人が気づいていない力をノートに「書き足して回る活動」を取り入れた。

相談者・相談内容



大阪府豊中市立
熊野田小学校
長岡かの子 先生

今回は思い切ってウェビングを2つ取り入れました。黒板がいっぱいになって充実感はずばりだったのですが、見返したときの見やすさはイマイチでした。

また、普段は子どもたちには自分のノートにしか書き込ませないのですが、授業中の子ども様子から「友達のノートに書き込む」時間を設定してみました。導入で考えさせた「△△がいちばん」を授業の最後でも考えさせたら面白いかなと思いましたが、時間切れでした。どう改善したらよいでしょうか。

ここはナイス！ 板書の工夫



長岡先生の、大胆な板書のチャレンジ、ウェビングを2つ入れるという発想、黒板のピシリ感は、子どもたちの発想を大きく広げるために効果を発揮したことでしょう。

授業の内容

- T:** みんなの中にはどんな「強い力」があるかな？ ノートに書いてみよう！
(黙々と書き始めた子と、じーっと考え続けてなかなか書き出せない子がいた。)
- T:** では、全員起立。「本人はまだ気づいていないけど、○○さんにはこんな力があるよ！」ということを友達のノートにどんどん書き足してあげましょう！（友達のノートに書き足す活動をする。)
- C:** (自分の机に戻って) わあ～、めっちゃ増えてる！
- T:** みんなの中にはたくさんの強い力があるんですね。そして、自分では気がついていなかった力にもたくさん気づくことができましたね。そのたくさんの強い力をもつ自分になれたのは、何のおかげかな？
- C:** お父さんお母さんが生んで育ててくれたおかげ。
- C:** それやったら、お父さんお母さんが出会って結婚してくれたおかげかも。
- C:** お父さんお母さんがいるのはおじいちゃんおばあちゃんがいるからやから、おじいちゃんおばあちゃんが出会ってくれたおかげともいえる！？ これ…永遠に続くやん！（笑）
- T:** 野球ができるのは、このつながりのおかげだけかな？
- C:** あっ！ コーチと監督もや！……。ということは、そのお父さんとお母さんと……。
- C:** バッティングセンターの機械とそれを作ってくれた人！ そのお父さんとお母さんと……。
- C:** 強い体をつくってくれてるのは、食べ物のおかげとも言える！
- C:** ということは、それを育てたり売ったりする人も。
- C:** 豚とか牛とか魚にも、お父さんお母さんがいる。
- C:** けがをしたり病気になったりしたときには、お医者さんも助けってくれた。そのお医者さんにもお父さんとお母さんと……。
- T:** 他にもみつけれられた人は、黒板に書きに来ましょう。(子どもたちが自由に書きに来る。)
- C:** 下の方にブルゾンちえみって書いてるけど、あれ何？
- C:** 落ち込んだときに笑わせてくれるから、心の面で支えてくれている。
- C:** あ～！ 納得！！
- C:** 支えて、いろんな形の支えがあるんやな～！
- T:** じゃあ、支えの種類ごとに色分けしてみようか！（支えの種類ごとに子どもの発言を色分けする。)

子どもの反応

【A児のノート】

私が今日いちばん心に残ったことは、自分は一人で生きているんじゃない、みんなの支えがあるからこそ、生きていられているということ。だから「自分なんて……。」と思うんじゃなくて、前向きに生きていきたいと思いました。私を支えてくれている人は、書ききれないほどたくさんいるから、次は、その一人として自分の名前を書いてもらえたらうれしいです。それに向かって頑張っていきたいと思いました。今まで本当にありがとうとみんなに言いたいと思いました。この人生の中で、支えられている人や支えられているものがない人は、いないんじゃないかと気がつきました。なので、この勉強ができて本当にうれしかったです。そして、授業の前に考えたときよりも、自分の好きなところが多かったので、この調子でもっと多くしていきたいです。

【B児のノート】

ほくを支えてくれるものは、ほくだけじゃなくみんなを支えてくれる。そして、食べ物や家族、楽しむなど、いろんな形があって、ほくは全てに楽しむことと一緒に、支えてあげることもできるようになりたい。そして、ほくの中にある強い力には、優しいや大切にすることが出た。最初はよく分からなかったけど、ほくはみんなの意見を聞いて、ほくのいいところが見つかったと思う。

わたしならこうする！ 問いの工夫



ウェビングを活用してある程度広げたら、そこから観点を絞ります。例えば「生きる力」とか「支える命」などでしょうか。次に、その観点を窓口にしたら何が見えてくるかを問います。そうすることによって、子どもたちは生命観というフレームで、より深く広く考えを拡充していくことでしょう。

ランクアップアドバイス 広げる活動について



本授業のように、広げる活動にはメリットとデメリットがあります。メリットは思いもよらない発見が生まれ、授業が生き生きとしてくること。デメリットは広がりすぎてねらいがブレてしまうこと。双方の特性を理解して授業を行うことが大切です。



道徳授業 Q&A

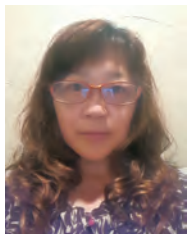
Q1

【4学年】

【内容項目】
勤労、公共の精神
【教材名】
みかん出し
(光文書院)



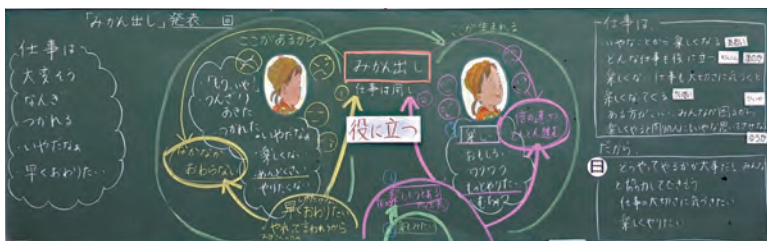
相談者



沖縄県名護市立
東江小学校
あさと ちか
安里 愛 先生

内容：板書の工夫

主人公の仕事をする前と後の心を対比させ、その変容を構造的に整理していきたいのですが、子どもから予想していなかった言葉が出てくると、どこに書いてよいか困ってしまいます。結果、矢印をいろんなところから描いてしまうなど、うまく構造化ができませんでした。もとの心の表し方も合わせて、構造的な板書のコツを教えてください。



A1

ポイント
アドバイス



ここはナイス！

安里先生が、主人公の初めと後の心を対比させたところがナイスです。

この教材は、主人公が仕事に対する意識を自ら変容させているところにポイントがあります。ですから、そこをはずさずに子どもたちに問うことで、働く意味、価値について子どもたち自身が新たな気づきを得ることができそうです。

ランクアップアドバイス

子どもたちの発言を板書に反映させるときには、「子どもたちと板書をつくる」という発想が重要です。

その際のポイントは、「子どもに聴く」ことです。板書計画には入れることのできないイレギュラーな展開ですから、最初は戸惑うのも無理はありませんが、ここが正念場。とことん子どもにつき合い、「どこに書けばいいかな？」と子どもに尋ねるくらいの覚悟でいきましょう。

Q2

【5学年】

【内容項目】
節度、節制
【教材名】
ひみつの
トレーニング
(光文書院)



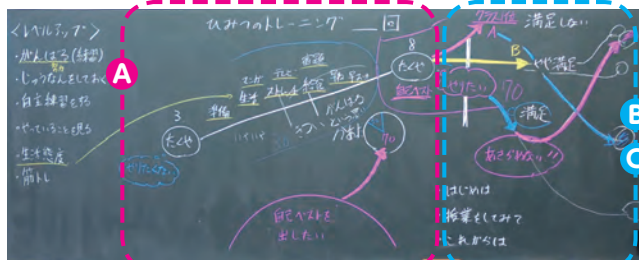
相談者



神奈川県横須賀市立
神明小学校
根本 哲弥 先生

内容：比較の工夫

初めと終わりの主人公のレベルを数値化させ、その理由を問うことにより、「**A** レベルがあがった理由を考えやすくする」、「**B** 終わりが10(ゴール)ではなく、その続きがあることに気づかせる」ことを意図しました。これからの主人公について「**C** 3本の線を示し、それぞれの違いについて考えさせる」と、さらに続きを考え、満足しない、あきらめない、それらを生む、自己ベストを出したいと願う心と理解を深められましたが、内容項目からは離れてしまいました。どうすればよかったですでしょうか。



A2

ポイント
アドバイス



ここはナイス！

主人公の努力ラインを図式化し、ベクトルで表したことで、教材に書いていない「その先」までを子どもたちが考え始めたところはナイスです。

教材を教えるのではなく、教材をきっかけに、自ら問いをもって考えようとする子どもたちの意識が大切にされた、主体的・対話的な深い学びになっています。

わたしならこうする！

主人公と、「由紀さん」のトレーニングの違いを比較させます。

同じトレーニングメニューをこなしているにもかかわらず、結果が違ってくる原因は何なのか。トレーニングを支えるものは何なのかを考えさせることにより、基本的な生活習慣や身体づくりという、節度、節制の内容に迫ることができると考えます。